

タグ付けチェックリスト機能概要(次世代 EDINET 案)

1. 目的

次世代 EDINET での XBRL 書類の提出は、インライン XBRL 方式を予定しています。インライン XBRL については、『EDINET タクソノミ新仕様の概要説明』の「1-4 インライン XBRL」を参照してください。

インライン XBRL 方式においては、ブラウザ上に表示される勘定科目又は表示項目は、XHTML 上の文字列として記載されるものであり、タクソノミ上に定義されるラベルとの自動的な連動はありません。このため、ブラウザ上に表示される勘定科目及び表示項目とタクソノミのラベルとの整合性を確保する、すなわち、タグ付けの誤りをチェックすることが重要になります。タグ付けチェックリスト機能は、このチェック作業を行うためのチェックリストを提供することが目的です。

2. 機能概要

タグ付けチェックリストは、開示書類等提出者が開示書類等を EDINET へアップロード後、事前チェック又は仮登録を実行することにより CSV 形式のファイルとして作成されます。提出処理フローにおける位置づけについては、「図表 1 書類提出フローにおける位置づけ」を参照してください。

当該ファイルには、要素名、該当記載事項、日本語標準ラベル等が記載されており、このチェックリストと実際の開示書類を比較することによりタグ付けの妥当性を検証することができます。チェックリストの記載項目の詳細については、「図表 2 チェックリストの出力項目」を参照してください。

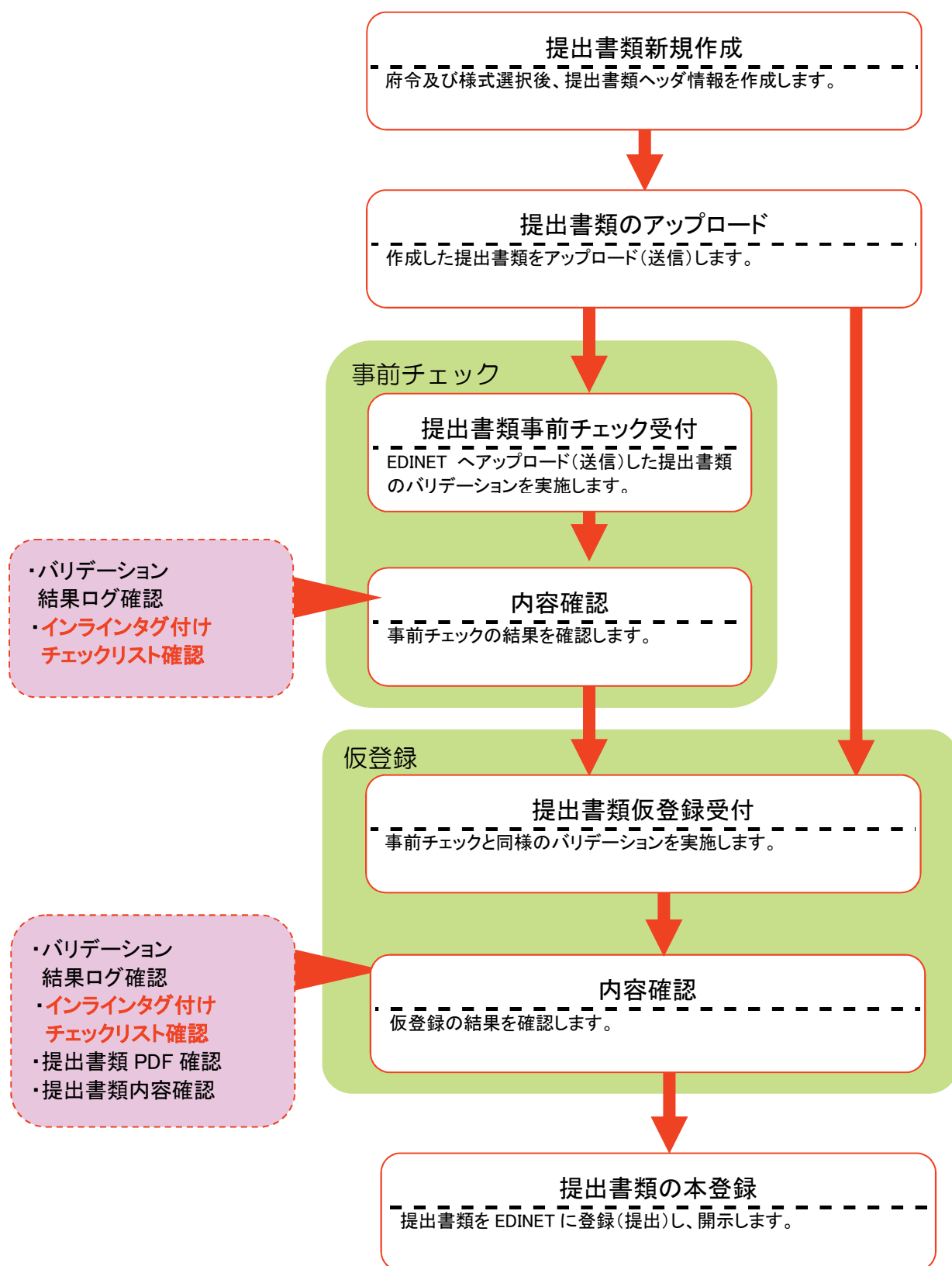
CSV 形式なので、表計算ソフトで開くことができ、必要に応じて、編集したり印刷したりすることもできます。

『タグ付けチェックリスト機能概要 添付 CSV サンプル』は、タグ付けチェックリストのサンプルです。当該サンプルは、サンプルインスタンス中の有価証券報告書（第三号様式）の XBRL データをベースに作成したものです。

3. その他

タグ付けチェックリスト機能は、タグ付けの妥当性を検証する一つの手段として提供する予定ですが、開示書類等提出者がタグ付けの妥当性を別の方法で確保しようとする場合には、タグ付けチェックリスト機能の使用は必ずしも必須ではありません。例えば、開示書類等提出者のインライン XBRL 書類作成プロセスの中に十分なコントロール機能が備わっている場合には、必ずしもタグ付けチェックリスト機能を使用する必要はありません。

図表 1 書類提出フローにおける位置づけ



図表 2 チェックリストの出力項目

No.	出力項目	摘要
1	要素名	記載事項をタグ付けしている要素名。
2	該当記載事項 (値)	当該要素名でタグ付けされている記載事項の値。 200 文字を超える場合は、201 文字以降は省略。
3	日本語標準ラベル	要素に対応する日本語標準ラベル。
4	コンテキスト ID	記載事項をタグ付けしているコンテキスト ID。
5	日本語冗長ラベル	要素に対応する日本語冗長ラベル。
6	preferredLabel (優先ラベル)	要素に対応する表示リンクに優先ラベルロールの設定がある場合、当該優先ラベルロールに対応する日本語ラベルが出力される。複数存在する場合は、全て出力される。
7	unit 属性	通貨単位を表す。
8	sign 属性	タグ付けされた値が正値か負値かを表す。正の場合は空欄。負の場合は、「-」。
9	decimals 属性	小数点位置を表す。 <例> 表示単位により以下の値が設定される。 百万円、百万株：「-6」 千円、千株：「-3」 株、円、%：「0」 X.XX 株、X.XX 円：「2」 X.XXX 株、X.XXX 円：「3」 X.XXXX 株、X.XXXX 円、X.XX%：「4」 X.XXX%：「5」 X.XXXX%：「6」
10	nil 属性	nil 値設定の有無を表す。 nil 値が設定されている場合、「true」。 nil 値が設定されていない場合、「false」。